

日本記者クラブ会報

■一九九一年一月二十三日 記者会見

「軍産複合体」と戦おう



ビタリー・コロティッチ
『アガニヨーク』誌編集長

私は、ソ連最大の週刊雑誌『アガニヨーク』の編集長をしておりますとともに、人民代議員大会の代議員でもあります。後で、皆さんから質問を受け、それに答えることを楽しみにしています。

わが国でいま進んでいるプロセスには、非常に深刻なものがあり、また中に不可能なものもあります。

私は昨日冗談として、水族館と魚のスープとを比較してみたら、という話をいたしました。それは、水族館で泳いでいる魚を料理し

中でも、一つの大きな問題となつたのが、軍産複合体です。われわれは、多くの敵が周りにいる、と教えられてきました。すなわち、ヒーローはすべてわが国の中にいて、敵が周りにいるんだと。そういう中で、軍産複合体は、手が付けられないほど巨大なものになりました。

けれども五年前から、わが国の社会を再活性化しよう、生き返らせよう、というプロセスが始まりました。

巨大になつた軍産複合体組みを取り除いてしまうと、社会を一つにまとめることが難しくなるわけです。われわれは経済を変え、生活を変え、そして人間らしくなろうと試みてきたわけです。なぜなら、長年にわたってわれわれは、人間的なカテゴリーからは分離されてきたからです。わが国では私的な財産を持つことができません。また、政党も依然一つしかありません。そのような条件下でデモクラシーを打ち立てるることは、決してたやすいことではありません。

目次
「軍産複合体」と戦おう

ビタリー・コロティッチ
『アガニヨーク』誌編集長
経済復興に日本の支援を
ビオレタ・バリオス・デ・チャモロ
ニカラグア大統領
10

東京都千代田区内幸町二丁目
日本プレスセンタービル
◎社団法人 日本記者クラブ
電話 ○三三三五〇二二七三三

そして、今や四百万人の軍隊を持つにいたつっています。へやわが国の予算の半分以上を、軍及び軍関連のために支出しています。経済を立て直すことができない国でありながら、引き続き巨大な軍産複合体を食べさせているわけです。

昨日、韓国に対して、わが国の兵器を買つてくれないかという話が持ち出された、といふことを聞きました。北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）もわが国の兵器を持っているわけですから、これはなかなか面白い話だと思います。

いまイラクでソ連製のミサイルが何をやつているかを、皆さんは目の当たりにしておられるわけです。今回の湾岸戦争は、アメリカによつてはあたかもパトリオット・ミサイルの広告のように見えるし、イラクのやっていわわれわれは軍事予算を削減したいのです。でも、われわれの将軍達は、それはあまりうれしくないと思っているわけです。ゴルバチヨフは東欧の問題解決に手を貸して、その結果、わが国の軍隊関係者が、東欧から帰国しきています。

わが国の前外相・シェワルナゼ氏に対する軍の攻撃がいかに激しかったかは、皆さんがご覧になつた通りです。ついにシェワルナゼ

氏は辞任しました。でも、これは手始めにすぎません。軍産複合体はますます強大になつています。まるでアメリカの映画『スター・ウォーズ』第二部の『帝国の逆襲』を見ているようだ、と私は冗談を言っています。

敵を探している軍隊

わが国の軍隊は敵を探しています。サダメ・フセインのような格好の敵がいないからです。そこで、わが国の中に敵を探し始めたのです。軍が警察の代わりに使われ始めています。バルト諸国でどんな事件が起き、だれがだれを殺したかを知らないなどと、大統領や国防相が言っているのは、まことに危険なことです。

わが国では、まだ市場経済をつくれていません。マーケットを持つ代わりに、われわれは巨大な軍と官僚機構を持つてしまっているのです。わが国における変化は、構造的な変化でなければなりません。決してたやすい改革ではないでしょう。けれども、改革は起ります。

昔から、一つのソビエト連邦と、もう一つのソビエト連邦が存在してきました。すなわち、変わろうとするソ連——外国からの支援を求めるソ連——と、外国からの断絶を願うソ連、その二つが存在してきました。そして、この民主主義を志向するソビエト連邦が、ますます強くなつてきています。

いまバルト諸国で起きている出来事は、全体の中の一つの滴にすぎません。自由のための戦いは、いろいろな所で行われています。このような戦いが、ペルシャ湾岸、バルト諸

になりましたが、最近、テレビ・ラジオ放送国家委員会の長が代わって、その結果、テレビは最も保守的な情報源となっています。

このような条件下で、われわれは外国の動静、あるいは国際的な世論から隔てられようとしています。もし、われわれが国際世論から全く隔離されてしまったなら、われわれの動きを止めることはできるでしょう。したがって、われわれにとつては、世界の人々と常に一緒に手を携えていくことが重要なのです。

私はソ日関係が良くないことを知つております。しかし、わが国の多くの人々は、関係が良くなることを夢みています。現在、日本の外相がモスクワを訪問していることは、極めて大事なことだと思います。四月にはゴルバチヨフが訪日を予定しています。

ところが、わが国におけるリベラルな改革が、現在、激しい攻撃の対象になつています。しっかりとしていたプレスは、今や考えられないような形で攻撃されています。刊行物の値段もこの間までより二、三倍高くなつています。政府は民主主義を志向する読者をカットアウトしています。テレビも巨大なメディア

国、他の地域でも起きていることは肝要なことです。

民主主義の子供を産む

われわれは国内の諸問題を平和的に解決するために戦っているのです。それを弾圧し、血と報酬を求める組織がわが国の中に存在することは、容認できません。民主化を後退させよう、押し戻そうとするような力は止めなければなりません。

実際、それはできると思います。われわれは民主化に向かってのプロセスをかなり歩んできましたから。“半分妊娠している”などというのは不可能なのです。ですから、われわれは“民主主義の子供を産む”はずです。ただ当初思っていたほど簡単ではないだけです。

私は、ジャーナリストが情報探しをやらない国から来た人間です。われわれはインフォメーションを与えられてきました。そしていま、われわれは初めて情報を自らの手で探し始めています。

始めに、皆さんからの質問に答えることを楽しみにしている、と申し上げましたのはなぜでしょうか。皆さんのが最も経験のある、最も進んだ国のジャーナリストでいらっしゃるからです。私の知っていることは、喜んで何でも申し上げます。

質 疑 応 答

武山（日経OB） モスクワで反ゴルバチヨフのデモが数日前に行われた。その時エリツィンの補佐官は、身が危ういからエリツィンは出ない、と言った。

先週末にワシントンのソビエト専門家から得たインフォメーションでは、ソビエトにおける反動勢力がエリツィンを逮捕するか、突然、彼を事故で死んだというふうに見せようとするだろう、と聞いた。その点についてはどうか。

それに関連して、なぜソビエトでは、あなたが言ったようなリベラルな人の結集が行われないのか。

コロティッチ エリツィンは、暗殺されるかもしれない、と言つております。でも、エリツィンは、ゴルバチヨフの競争相手ではあります。この試みは一月の初めにはかなり強かったです。これが二月の初めにしっかりした形で姿を現すことは可能だと思います。

このような運動の中にシェワルナゼからヤコブレフまで、左派の急進派の人達が民主主義という概念のもとに結集することが大切だと思います。ちょっと遅すぎるという懸念を私は持っています。わが国ではだいたい電車が出てから物を考えるというきらいがあります。

今や軍産複合体は、その拳を強くふりあげ始めています。でも、われわれは独裁体制を望んでいません。わが国の政治のボキャブラリーの中では政敵という言葉と、反対勢力という言葉は同意語です。ゴルバチヨフは今ま

ですけれども、とてもいいスタッフを持っている。このスタッフはゴルバチヨフが組織したもので、ゴルバチヨフが押し出した人々が、エリツィンの周りにいるわけです。

別の政党、別の指導者をつくり出すことは、わが国では容易ではありません。政党は一つ、共産党だけです。他の政党はまだ集会の段階にすぎません。政党というのは、綱領、予算、通信手段、事務局を持つ、しっかりととした組織です。

独裁体制に対抗してリベラルムーブメントをつくろうという動きが、モスクワにはあります。この試みは一月の初めにはかなり強かったです。これが二月の初めにしっかりした形で姿を現すことは可能だと思います。

で、反対勢力を自ら称する人を政敵と考えてきました。

しかし、合法的でデモクラシーに対して忠実な反対勢力を、ゴルバチョフは必要としている、と思います。なぜなら常にゴルバチョフは左派を切ってきたからです。左を切ることとは、左側の翼が短くなっているわけですから、ゴルバチョフが真ん中を飛ぶためには、もつと右も切らなければいけないわけです。民主勢力は以前からありましたけれども、わが国では組織としては存在していませんでした。一方、保守派はリーダーがいなくとも、ほこりの固まりのような形で集まっていたわけです。私はリベラルな人達、改革派の人達が集まることが必要だと思っていましたし、それを期待しています。けれども、可能かどうかは定かではありません。

議会の中でも、地域間グループというものがあります。でも、これは政党ではなくて、改革派、リベラル派の人達がその中でいろいろ話をしているだけです。われわれには政治的な力がチャードが必要なのです。これから一年、リベラルな動きが強くなることを期待しています。

わが国では集会を開くことは簡単です。一週間あれば、私は二十万人の集会を企画することができます。しかし、何かをリードする

ための恒久的な十人の委員会を構成するのは容易ではありません。

西岡（東京） 最近のゴルバチョフの言動を見ていますと、ひとところとは全く人が変わったように見える。つまり、ブレジネフに近くなってきてる。これは、彼自身が変質したのか、それとも軍産複合体の中に取り込まれて、心ならずもそうしているのか。どちらとお考えになっているのか。

もう一つ。西側諸国では、ゴルバチョフは最近悪くなってきたけれども、彼に代わる指導者がいない、だから彼を支持する以外ない、と言われていますが、これは事実でしょうか。ゴルバチョフに代わる指導者、例えばエリツインとかヤコブレフ、そういう人達はソ連を率いていくことができるのか。

コロティッチ 私は、三年前にゴルバチョフに尋ねました。「あなたはペレストロイカに踏み切ったことによつて、何十万人、何百万人の人達に、生活を変えろと言つたんですよ。もしペレストロイカが失敗したら、あなたは国民に対してどう説明するんですか。あなたが國民に対する決定によって、みんなの生活が破壊されたことをどう説明するんですか。非常に不幸せな生活になつたときに責任はどうやって取るんですか」と尋ねました。彼は「これは

僕の人生にとつても最後で一回きりのペレストロイカだ」と答えました。それで私は彼を信じたのです。

いま、ゴルバチョフは人質になってしまっている、と思います。二、三回、軍のグループがゴルバチョフをとがめているという議会用の資料をもらいました。ゴルバチョフは常にきつい攻撃を受けています。今やその攻撃は左からも右からもきています。まるでアジエンデとピノチエトの二役を引き受けさせられているように見えます。容易なことではないのですが、ゴルバチョフは、左右のバランスをとろうとしています。

この前の人代議員大会で、五十三人の将军やリーダーといわれる人達が戒厳令を出しますように、というアピールに連署して、彼に送りつけました。ゴルバチョフは流血を招かずバランスをとろうとしました。今や、事態はますます血生臭くなつて、それをバルト諸国で目の当たりにしているわけです。

われわれは他のリーダーを持ち得ていません。政党が一つしかない国で、代わりの指導者を生み出すことは不可能です。ゴルバチョフが官僚機構に対してやつたことを、官僚達は決して許さないでしょう。しかし、ましな人がいないですから、多分ゴルバチョフが一番ましだということでしょう。

その場合でも、自由選挙がなければいけません。ゴルバチョフは自由選挙で選出されたわけではなく、人民代議員大会で選出されたのです。エリツィンはゴルバチョフの地位に自らを擬したことはありません。エリツィンはあくまでも知事というか、ロシア共和国の成長であり、ソビエト連邦全体のリーダーになろうとしたことはありません。

いま仮にゴルバチョフが辞めたら、代わりにリーダーとして登場するのは非常に保守的な人でしょう。エリツィンは、今年ロシア共和国で選挙を実施して、ロシア共和国の大統領になろうとしています。

私は、ソビエト連邦でも、大統領選挙が必要だと思います。そういう選挙がやれてこそ、次の指導者についての話ができると思いますが、それは時間的にもう少し先でしょう。

いま、ゴルバチョフはひどい状況に追い込まれています。例えば、リトアニアのビリニユスで流血の惨事が起き、人が死んだときに、ゴルバチョフは、「私は知らなかつた。新聞で初めて知つた」と言いました。大佐が国を支配するようになつたら非常に危険です。

ゴルバチョフは自分が大統領であり、強力な指導者であることを示さなければいけません。ゴルバチョフは十分に経験も積んでいる

し、頭のいい政治家です。政治的にいかにバランスをとつて生き残つたらいいかということを、多くの時点において示してきました。

保守派の人達が力を握ることのないように、保守派の人達から力を奪うように状況を変えねば、ゴルバチョフはきっと何かするだろうと信じています。もしそうでなければ、わが国にとっても世界全体にとっても、危険なことになるでしょう。

高山（朝日） 三月十七日にソ連の連邦制を維持するかをめぐる国民投票が予定されています。いまの状況で投票が実際に行われるかどうか。すでにいくつかの共和国は参加しないと言っていますが。

われわれには、養ってくれる人、引き受けてくれる人がいないわけですから、協力しなければいけないわけで、それ自体にかなりの問題があります。グルジア共和国やバルト諸国のように、ソビエト連邦の一部だと思っていい所があるわけです。そういう所は国民投票に参加したくないと言っているわけです。

エリツィンは四つの共和国の連邦で十分じやないか、と言っています。私は、国民投票は行われて、共和国単位で集計が行われると思います。

奇妙なことに、向こう四、五年間、ソビエトの各共和国は別々では経済的にやっていく

ないという事情があります。共和国はそれを独立したいと思っていて、かつ、共和国同士協力しなければいけないということを理解しています。

昔のアメリカ映画のように、黒人と白人が監獄から脱出していけるような状況です。鎖で結束されているようなものです。お互い大嫌い、でも鎖でつながれているから一緒に走らないと脱出できない。もし、相手を殺したら自分も死ぬはめになる。だから、わが国の共和国はみんな一緒になつて独立を目指す。独立のための戦いはもつと強くならなければなりません。

われわれには、養ってくれる人、引き受けてくれる人がいないわけですから、協力しなければいけないわけです。日本が里親になつて養ってくれるのであればその方がいいのですけれども（笑い）。このような奇妙な協力は東欧との間でも同じです。西ヨーロッパのような発展段階に到達するまでは、東欧ともまた協力しなければいけない。

ゴルバチョフが使っているテーブルは、スターイン、フルシチョフ、ブレジネフが使ってきたしつかりしたテーブルです。そこにたまっている請求書をゴルバチョフは全部払わなければいけないわけです。ですから、四月にゴルバチョフが訪日する時には、昔のスタ

ーリンの請求書まで払って下さい、というこ
とを求められるわけです。

国民投票は行われるでしょう。そして、投
票結果によって決定されるでしょう。連邦制
度が続くとして、一体どういう連邦になるの
かは分かりません。わが国の将来の国名につ
いても話し合われているのです。

饗庭（ＮＨＫ） ヨーロッパの軍縮に当た
って、軍部がシェワルナゼ外相に秘密で戦車
などを隠した、という話がありました。湾岸
戦争に関して軍部がゴルバチヨフ政権の意に
反して、違ったことをやっている可能性があ
ると思われますか。

コロティッヂ 軍産複合体はどこかでつな
がっていて、お互にお互いを必要としてい
ます。そして彼らが生き残っていくためには
常に危険な状態を必要としています。

フルシチヨフとアイゼンハワーの会談が六
〇年代に予定された時、アメリカのU-2型偵
察機がソ連の領空を侵犯して、撃墜されてし
まい、その結果、会談が吹っ飛んだ、とい
うことを思い出します。

数年前、大韓航空機がソ連の領空の中に入
ってきて、ソ連がそれを撃ち落とし、それに
よって冷戦状態がそれだけ長く続いたという
ことありました。また、レーガンがモスク

ワを訪問する十日前に、アメリカの巡洋艦が
ソ連の南部のクリミア海岸の近くに現れる、
ということもありました。

そういうことが起これば、三、四年くらい
軍産複合体は生き延びられるじゃないかと、
将軍達は恐ろしい結束を誇っています。いま
ドイツでは、ソ連やアメリカの将軍達がドイ
ツにずっといたのに、いやいや帰国しなけ
ればならないので、不満足な顔をしています。
軍産複合体は、すべての人にとって大きな危
険だと思います。

現在世界には、二つのパワーがあります。

一つは、ソ連やアメリカに代表される軍事力。
もう一つは、日本やドイツに代表される経済
力です。私は、日本のやり方の方がベターだ
と思います。

ソーセージやパンやバターが足りないのに、
必要以上の数のミサイルがわが国にはあります。
それは、われわれにとって共通の危険で
あり、われわれは軍産複合体に対して戦わな
ければなりません。戦車をつけていた工場
をトラクターをつくる工場に変えることはで
きます。しかし、ミサイルについては壊して
しまうこと以外に手がないわけです。しかも
それは一基何百万もするのです。

軍産複合体は、自らの命を人質にしていま
す。生き延びるためにはそれをやっていかな
こともありました。

ければならないわけです。気の毒なゴルバチ
ヨフは、ゴルバチヨフよりも強い人々の人質
になっています。これは、システムが生み出
したものであり、同時にゴルバチヨフはシス
テムの犠牲になっているわけです。

広瀬（テレビ朝日） あなたはいま随分思
い切ったことを話したが、その結果が将来、
あなたの政治生命にかなりの危険を及ぼすの
ではないかと、同じジャーナリストとして心
配しているのですが。

コロティッヂ 私は、東京の大使館の関係
者とすでに会合をもちました。大変興味深い
会合でした。かなりの人達がハードライナー
でした。しかし中には、一体何が起きている
のか本当に知りたい、変革を手助けしたい、
という人もいました。

外交官は、時に頭の中で考えていることを、
そのまま口に出さないことがあります。ジャ
ーナリストは、口にしていることを頭の中で
考えていなこともあります（笑）。私が
存在し得ているのは、自分が表現したもの
基盤に立つてのことです。ジャーナリストは、
自由が生み出した真実をメディアに投影して
いるのです。自分の国のことや自分の考え方
をよく知らないで、自國と自分の政治理念に
とつて都合のよい事ばかり言つて暮らそうと

いうのは、不可能なことです。

大使館の人達と会ったときに、あるハードライナーが、「あなたは一体だれのためにやっているのか」と聞きました。私は、「憲法と刑法を分かった上でやっているんだ」と答えました。私は、自分の机の上にある電話(指令の意)ではなく、憲法に依拠したい。わが国での戦いというのは、普通の人として生きられるようにしたい、ということです。ジャーナリストはみんな、自分自身でありたいといつも夢見ているのです。自分が正しいと思っていることを書きたいのです。

私は最初、外科医の教育を受けました。私の両親は、「実業に就かなければいけない」と言っていました。「ジャーナリストになってしまったら、自分よりも高い地位の人に頼ることになる」と両親は言いました。「外科医になつたら自分の腕で身を立てることができるじゃないか」と。私は、外科医を六年しかやりませんでした。私は職業を変えてジャーナリストになりました。正しい選択だったと思っています。

毎日、毎日、真実がわれわれの心の中で印刷され、それによっていつか社会が内部から吹き上げるのです。それぞれの人が自分の中に天安門を抱えているのです。そして、自國の人々と接触を保とうと試みることで、ジャ

ーナリストははじめて幸福を知るのです。

私は、人民代議員大会の代議員に奇妙な形でなりました。一度も行ったことのない、人口二百万の都市が、私を代議員に推したのです。候補者は十二人いました。第一回投票で、私は八四%の票を集めました。東京の帰りにその都市に寄ることにしています。そこに行きましたら、東京で嘘を言つてきたのか、それとも本当のことと言つてきたのか、と聞かれます。

時には真実を言うことが役に立ちます。私はアメリカに行つたときに、私を選んでくれた都市には戦車を生産している工場が十ヵ所ある、と言いました。それは秘密だったのでですが。人々はその戦車工場を閉鎖して、トラクターを生産しようとしていたのです。今やこの戦車工場はトラクター工場に変身しています。

こういうふうにものを言おうとする時、いつも私の心の中には小さなスター・リンがうずくまつていて「もうこのへんで止めておけ」と言います(笑い)。しかし、これが私の経験であつて、人生なのです。時にはわれわれはもっと強くならなければならない。なぜならば、われわれの後ろには子供達があり、子供達に幸せでないことを強いるようなことがあってはいけないのだから。

私の人生につきまつて離れない記憶は、父のことです。父は自分の生きたいように生きられなかつた。同僚に本心を打ち明けることを恐れていた父は、家でそれを私に言つていました。父は非常に不幸せな人でした。私は父よりも幸せになりたいと思つたし、いまはるかに幸せです。皆さんと一緒にいることができて…。

荒田(朝日) 先ほど、ゴルバチョフ大統領が左右の批判の中でバランスをとろうとしていると言つた。それはよく分かるんですけども、ゴルバチョフ政権の性格は、例えば一年前とか二年前と比べて変質しているのかどうか。右の方に変質していると言われたけれども、それは正しいのか、間違つた解釈なのか。

それからゴルバチョフ大統領の周辺にいた人達が、次々と引退したり、引退を噂されています。ゴルバチョフチームといわれた人達は、いまどうなつてしまつたのか、解散するのかどうか。

コロティッチ ゴルバチョフの周りには随分、前とは違つた顔触れの人があります。古い体质の官僚達がゴルバチョフの周りにいます。昨年までは諮問会議として大統領評議会があつて、そこにはしつかりした人達がいました。

ところが大統領評議会はすでになくなつてしましました。

ゴルバチョフチームの中で最も急進的だったのはヤコブレフだと、私は思っています。

私はヤコブレフに、「あなたは大統領評議会のメンバーだったが、いまはどこにいるの」と聞きました。彼は「大統領評議会は廃止されてしまつたけれども、私はいまも元の部屋に座っている。私はいまも諮問委員会のメンバーとして仕事をしている」と答えました。

現在、わが国にはいろいろなグループのリーダーがいます。まだ、急進派グループのリーダーもトップのどこかに残っています。保守派もいます。今や、新しいゴルバチョフ体制が生まれ始めており、その周りには保守派が取り巻くようになっていますが……。

いま、本当に何が起きているかを私も知りたいと思います。ゴルバチョフが従来のやり方を変えるには、ちょっと遠くへ来すぎた、と私は思っています。彼が右派の人達のところに行つて、「私はあなた達の仲間だ」と言つてもだれも信じないでしょう。この五年間、右派の人達にとつてはひどい思いをした時期があつたわけで、そのときに味わつた恐怖の日々を右派の人達は忘れないでしょう。もう少し待とうではありませんか。私も含めて、いろいろ

るな人達を逮捕することはできます。でも、プロセスを変えることは不可能です。わが国の人々は人間らしく共に生きたいと言つています。

われわれはかつての敵というイメージを壊してしまったのです。アフロメーティエフ元帥が私の雑誌に、「日本やドイツのあるグループが、わが国を攻撃しようとしている。だからわれわれは強力な軍隊をもたなければならぬ」と書いたときに、そういう考え方に対する抗議の投書を私はたくさん受けとりました。すなわち、わが国の人々は、日本もドイツも友好国だと思ってるわけです。われわれの世論調査では、八六%の人々がアメリカを最も友好的な国だと回答しています。わが国の人々は現実的になつて、友好的に生きたい、普通の生活をしたい、と思うようになつています。

ゴルバチョフが路線を変えようとしても、わが国の人々がそれを許さないでしょう。ひょつとして私は自分の國の人々を実態以上によく見ようとしているのかもしれません、人々は自分達が願つてゐるリーダーを持ちたいと思うものです。リベラルなリーダーを持つ用意が整つてゐると思います。

複合体」ということを聞いたのは初めてです。ロシア語にもそういう言葉があるのか。私達によく理解させようと思つてその言葉をお使いになつたのかと思われますが、イメージがわいてきません。内容をもう少し説明していただきたい。

コロティッチ　わが国では五百万人の熟練した労働者、エンジニアが兵器をつくっています。イラクや北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）、あるいはアフリカの兵士達が持つてゐるカラシニコフのサブマシンガンのほとんどがソ連製です。中国製のものも少しありますけれども。戦車とかミサイルとか爆撃機の話をもう一度繰り返すことは止めたいと思います。恐ろしい話ですから。

そういう兵器を生産するためにはしっかりと産業が必要です。そして、兵器を必要とする人達がいなければ困るわけです。ということはわが国に軍隊が必要であり、そしてわれわれの周りに軍事力を必要とする情勢が必要なわけです。

わが国には多くの将軍がいます。裏付けされた事実ではありませんけれども、モスクワだけでも、アメリカにいるよりもたくさん将軍がいる、と言われています。それぞれの将軍が戦車も、兵隊も、機関銃も、兵器をつくる工場も必要なわけです。

中村（神奈川）　ソビエトの方から「軍産

武器をつくる側の人と、武器を使って軍隊を支配する人が複合体をつくるわけです。彼らは、考えられないほど高い給料をもらっています。お金を計算したことがなかつたら、かつて軍事用のナイフをつくっていた工場で、食事用のナイフをつくつたところ、一本百五十ドルもかかったという話があります。いま、わが国の工場では軍用の飛行機をつくっています。ということはそういう飛行機を売る、相手の軍隊が必要なわけです。軍用機を買ってくれる外国の政権が必要なわけで、そうすれば、彼らは満足のいく生活が送れるわけです。

ところが、一方でわが国ではテレビの受像機も自動車も自転車も十分にはないわけです。ミサイルとごく普通の商品との値段を比較しようとすると、軍産複合体の人達は武器をつくらなければ生き残れないのです。彼らが機関銃をつくらなくなつたら何をつくるんでしょうか。おもちゃでしょか。そうなると、政治的な立場も変わつてくるし、入ってくるお金もガラリと変わるでしょう。

このような状況を乗り超えて、平和的な目的のために軍産複合体を使いたいと、私はなぜ考えるのでしょうか。ここにはすばらしいエンジニアとすばらしい労働者がいます。こ

の人達は国のために役に立つことができると思っているわけです。この人達をうまくコントロールしていかなければなりません。そして、戦車一台一台、ミサイル一機一機、よく予算の中で検討すべきです。併せてソ連の将軍達もきっちりとコントロールしたいと思っております。なぜならば、将軍達が憲法よりも強いと、バルト諸国のような出来事が起きるからです。

(通訳 福島安紀子 文責 編集部)

ビタリー・コロティッチ氏 一九三六年生まれ。キエフ医科大学卒。八六年から『アガニヨーク』誌編集長。八七年ゴルバチョフ訪米に随行。八八年には訪日し、安倍幹事長（当時）らと会談。ソ連・急進改革派の旗手として知られ、「フルシチヨフの陰謀」「杉本良吉は銃殺されていた」などのスクープがある。

■一九九一年二月十三日 記者会見

経済復興に日本の支援を



ビオレタ・バリオス・デ・チャモロ
ニカラグア大統領

(司会・藤村副理事長のゲスト紹介)

本日は、ニカラグアのビオレタ・バリオス・デ・チャモロ大統領をお招きました。皆さんご存じの通り、チャモロ大統領は、おとし自由と民主主義を唱え、サンディニスタ政権に対抗する「国民野党連合」(UNO)の大統領候補として指名を受け、昨年二月当初の予想を覆して大勝し、大統領に当選されました。明日、離日されますが、帰国されるところがご主人は、四十二年間続いたソモサ政権を批判したため、七八年一月暗殺されました。この暗殺を機会に反ソモサ運動が大変高まり、七九年六月、サンディニスタ民族解放戦線(FSLN)が臨時革命政府を樹立しました。

二男二女の主婦であつたビオレタさんは、ご主人が暗殺された後、「ラ・プレンサ」の経営を引き継いだのですが、七九年七月にサンディニスタ政権からの要請を受けて、国家再建執政委員会の委員に就任しました。しかし、サンディニスタ政権が次第に左傾化するのに反対し、わずか九か月で同委員を辞任しました。

アキン・チャモロ氏と結婚されました。

わけです。

そして、八九年九月、十四の政党を結集したUNOの大統領候補に推薦され、昨年の二月に先程申し上げた通り予想外の大勝となつたわけです。

会見前に伺つたのですが、自由と民主主義を守るというご主人の遺志だけが自分を支えている、と言つておられました。

きょうはあまり時間がございません。まずチャモロ大統領から皆さんへメッセージをいただき、その後質問に答えていただくことにしたいと思います。

簡単にチャモロ大統領の略歴をご紹介いたします。一九四七年、アメリカのバージニア州プラックストン・カレッジを卒業されて、五〇年、「ラ・プレンサ」社主のペドロ・ホ

・オルテガ氏が国家再建執政委員会の議長に就任、その後オルテガ議長は八四年十一月、革命後初の大統領に当選しましたが、この間「ラ・プレンサ」はサンディニスタ政権に対する大変鋭い批判を続けたために、頻繁に検閲、発行停止などの妨害が加えられました。チャモロ夫人は弾圧に屈することなく、
「ラ・プレンサ」を維持し、反サンディニースタ政権の論陣を張ったため、ある種の反サンディニスタ政権のシンボル的な存在として、対外的にも国内的にも活躍することになった

ここにお集まりのすべてのマスコミ関係者の方々に心からごあいさつを送ります。私は、きょう東京にいることをとても喜んでおりまます。まるで私は自分の家にいるような感じを持つております。

私は、日本人は非常にやさしい心を持ち、国際的な問題をいかにして解決するか、そのためにはどういう貢献をするか、と常に心掛けている民族だと思っております。

昨年二月、わが国建国後初めてといえる公正な選挙が行われました。そして、その際日本政府が私どもに支援してくださったこと、国連やその他の国際機関を通じて、日本政府が私どもに寄せてくださった経済的な協力に対しても、私どもは常に感謝の気持ちをもっております。

このような日本をはじめとした友邦国の支援によって、わが国では表現の自由、複数政党制、基本的人権といったものを勝ち取ることができました。ニカラグア国民の希求した、平和と和解と民主主義と自由を入れたわけです。

おととしの九月、ニカラグアの十四の野党が、この野党の勢力を代表する大統領候補として、この私を選ぶことになりました。そして私は、その大統領候補の要請を、祖国に対する強い愛情でこたえようと決意いたしました。

私がニカラグアに對して持っている愛情、すべてのニカラグアの人々に持っている愛情、こういったことから大統領候補を引き受けました。

成果は武装解除、軍隊の削減

そして昨年一月、私どもは大統領選挙に勝利したわけです。私どもがまず着手したのは、わが国の平和の確立であり、すべてのニカラグア人の和解の道を歩むことになりました。その結果、私どもは九年の長きにわたる戦争に、ついに終止符を打ったわけです。

日本の方々には、戦争の廃墟から立ち上がるところがいかに困難であるかを、良く理解していましただけだと思います。平和をつくりあげることは戦争を始めるよりも困難なことではないか、と思います。しかしながら、私どもは過去一年の間に、ニカラグアの平和を達成することに成功いたしました。ニカラグアの抵抗運動の反乱者二万人の武装解除を達成することができたのです。

同様に、わが国の軍隊を削減することができました。八万人から九万人いた兵士の数が、今では二万八千人に減っています。そして昨年十月には、ニカラグアの様々なセクター、すなわち政府、組合、民間企業の間で、『社会経済合意』に達することができました。このプロセスを私どもは、『国民合意プロセス』

と呼んでいます。この合意こそがわが国の社会的な平和達成の基盤となるものである、と確信しております。

大統領就任後十一か月の間に、三権（行政、立法、司法）の独立も達成することができます。

これこそが眞の意味での民主主義を保障するものである、と思います。しかしながら、私どもが勝ち得た平和や民主主義は、これから確固としたものに強化する必要があります。そのためには先進諸国に対し、非常に多額な債務を抱えているわが国が敗戦の廃墟から立ち上がるよう、特別な配慮、取り扱いを要請しております。

急務の対外債務問題

今回の私の訪日の目的もそこにあるわけですね。私どもの政府は世界各国に対して、わが国の窮乏を訴え、経済支援の必要性を分かっていただきたいと思っています。私どもの国は、国際的な機関に対する支払いが非常に遅滞しておりますが、これを解決し、経済的に私どもの国が再びスタートを切れるよう協力を要請しています。

日本滞在中に、私どもは日本の指導者の方と会談いたしました。そこで前向きの対応をしていただいたことを、非常に喜んでおります。海部首相は、三月にワシントンで行われる会議に出席し、ニカラグアを支援するこ

1991年3月7日

とを約束してくれました。またニカラグアが国際機関に対し支払いを遅滞している問題に對しても、支援を約束してくださいました。また、ニカラグアとの貿易の促進や都市環境を備えるための長期融資の支援も取り付けました。そのことによって今後両国間の貿易が活発になることを期待しております。

また、私どもは日本から千五百万U.S.ドルの経済協力、七百万ドルの無償金融協力、輸出保険の再開、さらに新規の二百万U.S.ドルの融資枠を取り付けることができました。それに加えて、わが国の教育・文化プログラムの強化のための文化協力も得ることができます。

私は、日本が私どもの要請に前向きに対応してくださったことを非常に感謝しておりますとともに、両国の友情が国際的な和解を確立する上でもいろいろな成果を上げることを確信しております。私どもの政府は世界の共同体というものを目指しているわけです。

スピーチはこれくらいで終わりにして、これから質問を受けたいと思います。私は大統領になる前は、ご紹介もありましたように「ラ・プレンサ」という新聞の社主をしておりましたので、記者の方々の仕事についてはよく存じ上げております。皆さま方はスピー

チを聞くことにも関心がおありでしようけれども、また様々な質問を持っていらっしゃると思います。皆さまの質問は、いまわが政府が確立した完全なる自由という精神でおやりになつてくださることを、私は非常に喜んでおります。

藤村：先程会見前にゲストルームで記念の署名をしていただいたときに、チャモロ大統領はこうサインされました。

『ニカラグアではやっと一年前に報道の自由ができた。報道の自由の長い歴史のある日本に来て大変うれしい。日本記者クラブに招かれたことが大変うれしい。そして、できるだけたくさんの質問をしてほしい。』

残念ながらあまり時間がありません。できるだけ簡潔に質問していただきたい、活発に質問していただきたいと思います。

現在私どもの政府が直面している最も深刻な問題は、わが国の経済危機をいかにして解決するかということです。

先程の成果の続きですけれども、スピーチの中でも申し上げたように、それは武装解除であり、武器の放棄であり、軍隊の削減です。

宮川（朝日）：二つ質問があります。一つはニカラグアの軍の問題です。今なおサンディニスタの影響力が非常に強いと言われてい

伊高（共同）：政権を担当されてから十ヶ月経つわけですが、一番の成果は何であつたか。そして現在、ニカラグア政府が直面している最も深刻な問題は何か。その深刻な問題を解決するためにどのようなことをやるのか、などについてお聞きしたい。

もう一つは経済の問題です。私自身はニカラ

モロ：大統領就任以来、私が最も望んでいたことは、わが国における戦いの終結ということです。すなわちニカラグアにおける平和と和解、ニカラグア人同士がお互いに許し合う心の確立です。

そのためにあらゆる意味での恩赦が行われ、祖国を追われた人々が、今ニカラグアに帰ってきました。それは、私が大統領に選ばれた昨年の二月二十五日から始まり、それが私どもの政権の最大の成果だといえると思っています。

藤村：先程会見前にゲストルームで記念の署名をしていただいたときに、チャモロ大統領はこうサインされました。

宮川（朝日）：二つ質問があります。一つはニカラグアの軍の問題です。今なおサンディニスタの影響力が非常に強いと言われてい

ラグアと日本の経済協力がうまくいけばいいと思っている一人ですが、例えばソ連とか東ヨーロッパの経済復興のためにも日本の資金が必要だし、湾岸戦争の解決のためにも日本の資金が必要です。そうすると本来中南米に行くべき日本の資金が減ってしまうんではないかという心配を、大統領ご自身がお持ちなのか。あるいは楽観されているのか。その点を伺いたいと思います。

チャモロ 第一の質問についてですけれども、私たちの政府は、まず平和は国民の統一なくしては確立できないということで、国民的な合意、和解という路線を進めてきました。そのためには軍隊、民間企業、労働者などすべてのセクターの合意と和解が必要であるということ、常にそういった政治の仕方をしております。

軍隊についてですけれども、スピーチの中でも申し上げたように、わが国の軍隊はあまりにも多過ぎ、また強大であることから、私は大統領就任以来、軍隊の縮小に取り組んでおりました。先程申し上げたように、八万人から九万人いた軍隊が、現在二万八千人に減っております。

しかしながら、軍隊から離れた兵士達を路頭に迷わせるわけにはいきません。このようないいふ兵士達のリロケーション（再配置）が必要

なわけです。彼らにも働く場を与えるなくてはいけないということが、私たちの政府の大きな問題です。

同じことは、われわれが抵抗運動の活動家と言っているコントラの活動家についても言えます。彼らを戦列から離れさせ、そして社会的あるいは生産的な戦線に復帰させることが、同じ人間としてニカラグア国民として、必要なことです。

そこで私たちの政府は、兵士達に多少ではありますか耕地を与え、生産活動に従事させるような政策をとりました。例えばスペイン政府から五百万ドルの援助を受けたのですが、その援助で五千人の兵士達になにがしかのお金を与え、彼らが戦列から離れられるようにしました。そういう方法で軍隊を縮小しております。

第二の質問はニカラグアの経済危機についてであります。私たちの国は本当のところ破産状態で、経済危機の真っ只中にいるわけであります。わが国の対外債務は百十億U.S.ドルであります。

荒木（N.H.K.） 以前、チャモロ大統領が中南米地域の平和創設についてお話をなったをお聞きしたわけですが、この地域の非軍備化、あるいは平和化のプロセスが、今どのような状況にあるのか、それについての日本の協力をどのようにお考えなのか、お聞きしたいと思います。

もちろん、湾岸戦争の影響もあります。け

れども湾岸戦争は、単にわが国のみに影響を与えるのではなく、全世界に影響を与える出来事です。

私は国連を支援し、支持しております。湾岸戦争がぼっ発しないように、私は一人の力トリック信者として、祈っておりました。その祈りも空しく戦争がぼっ発したわけですが、その後も、できるだけ早くこの戦争が終結し、そして対話により解決が図られるよう相変わらず祈っております。

私どもはよく分かっております。死というものが苦しみと嘆きと涙しかもたらさないということを。私どもは日本やアメリカあるいはドイツのような友邦国が、廃墟から立ち上がりうとする貧しいニカラグアの国民を救いあげてくれることに、大きな確信を持っております。私たちの問題は、今後四ヶ月の間に少しずつ解決するであろう、というのが私ども政府の見通しです。

チャモロ 私はニカラグアの大統領として、もちろんニカラグアの国内問題に常に心を碎いてきたわけです。これからも一層そういう問題について考えなくてはいけないと思想です。

しかし、中南米地域の平和が、わが国の平和にも非常に大きな影響があるのも事実です。中南米のように小さな国家が集まっている地域においては、国家間の統合あるいは連合が、この地域の安定ひいてはわが国の安定と平和にとっても重要である、と考えております。

従って、大統領に就任以来、常にこうした中南米地域の国々の大統領との合意、あるいは協定、そしてそのためのコミュニニケーションの強化を図ってきました。中南米のどこかの国で問題があつた場合、私どもが即座に電話で話し合って解決していくという状況が、いま作り上げられております。

こういった問題に対する日本の協力、日本に何を期待するかということですが、私としては、中南米の主権を重んじつつ、常に尊重していただけたことが、日本の最大の協力だと思っております。

ニカラグアの同行記者 先程の質問に関連しますけれども、中南米の平和化については、サンサルバドルの問題もありました。この中

南米の平和化、あるいは軍備解体化に対して、日本の政府が何をしてくれるかについて、もう一度お聞きしたいと思います。

チャモロ サンサルバドルの反乱者にニカラグアからサンサルバドルにミサイルが出ていた、という大きな問題があつたわけです。そしてこのサンサルバドルの反乱者には、メキシコで同じような活動をしている者の支援があつたわけです。私はその件に関して、エルサルバドルのクリスティアニ大統領とも話し合いました。

この出来事は三週間から一ヶ月前に起こったわけですが、幸いなことにサンサルバドルの問題は解決しつつあります。使われなかつたミサイルはニカラグアに返還する、という話し合いができております。

サンサルバドルの反乱者達はもう内戦あるいは戦いに疲れています。疲弊しています。「もうたくさんだ」という気持ちなのだと思います。私もとしても、私の指揮下にある軍隊、すなわちミサイルを引き渡した軍人達を制裁しました。

日本の友人達にぜひ聞いて欲しいことがあります。私はミサイルのみならず、すべての武器に対して徹底的に反対します。私はすべての武器の敵である、ということができると思

思います。そして、今は戦争の遺産である武器をいかにして元の国に返すかということに、非常に苦心しております。

今後、ソビエトと会議が開かれるでしょう。その場において私どもは、ソビエトから手に入れたミサイルを返還する交渉をしたい、と思います。私どもは、戦争を促進する武器は、いかなるものもわが国にとどまるることを好みません。またわが国から武器が出ることによって、隣国の平和を脅かし、戦争状態をさらに促進するようなことはもつてのほかだ、と思っております。

正直に申し上げますけれども、わが国にはミサイルも戦車もヘリコプターもあります。これらはソ連並びにドイツからもたらされたものです。ソビエトとは返還の交渉をいたします。ドイツに対しても、武器についての話し合いを行い、速やかにわが国からすべての武器がなくなることを願っております。

平井（毎日） 現在、ニカラグアが直面している深刻な経済問題についてですけれども、インフレ率は高く、多額の対外債務を持ち、そして成長率は非常に低いわけです。こういった問題の解決をどのようにするのか、具体的にお聞きしたい。

ラカヨ大統領府大臣 この問題については、

私から答えます。私どもが何を行っているかということですけれども、現在、経済の安定化プログラム、構造調整計画というものを策定している最中です。インフレ率を下げることが非常に重要な骨子です。それとともに公的支出を削減することによって、財政赤字を抑えたいわけです。

現在までに非常に大幅な財政赤字は減ってきています。実質的にはゼロに近い状態まできております。また、ここ数か月の間に外国からの新規の融資が得られます。主としてアメリカからですけれども、これによって財政も立て直しが図られると思います。

並行して、私どもは対外債務のリスク交渉その他を行っております。ベネズエラあるいはメキシコといったニカラグアへの石油供給国については、具体的な合意を得ている状態にあります。

今後、その他の再建国、チエコスロバキア、ソ連、イランとも交渉しますし、パリクラブのメンバーとの交渉もこれから始まるところです。

私どもは、現在策定している経済安定計画、構造調整計画が効果を持つことを信じております。また外国の支援並びにニカラグア国内の民間部門の活性化によって、成長率が高まることを期待しております。

私どもの政府の方向性ですけれども、それは自由で開放された経済市場を目指すことです。そのためには社会的な公正さが重要です。その基盤にのっとった自由で開放的な経済を推進し、民間のダイナミズムに期待するといふことです。外国からの投資並びにニカラグア国内の企業の積極的な発展への努力が期待されます。

同時に外国からの投資を目指す企業の代表団も誘致したいと思います。日本からも企業のメンバーを代表とする代表団が、ニカラグアを訪問することが決まっております。

チャモロ 最後にここにお集まりの皆さま方に感謝したいと思います。この会見で、皆さま方がわが国に対して持っていた疑問が水解することを期待しております。私はわが国から遠い日本の方々と、このように近くでお会いすることを希望しておりました。その夢がかなったことを非常に喜んでおります。今日はどうも本当にご清聴ありがとうございました。

反サンディニスタのイデオロギーを共有する十四の政党で構成する「国民野党連合」(U.N.O.)からの出馬要請を受け、八九年九月、大統領候補の指名を受諾したチャモロ夫人は、九〇年二月、サンディニスタ優勢との前評議を覆して大統領選挙に圧勝、同年四月ニカラグア大統領に就任した。

(通訳 丸山啓子 文責 編集部)
ビオレタ・バリオス・デ・チャモロ氏 一九二九年、ニカラグア南部のリバス県生まれ。一七七年、米国バージニア州ブラックス頓・

カレッジ卒。五〇年、「ラ・プレンサ」紙社主のペドロ・ホアキン・チャモロ氏と結婚。ご主人のペドロ・ホアキン氏は、反ソモサ大統領運動の論客で、その論調は国民的支持を得ていたが、七八年一月暗殺され、その後、チャモロ夫人が社主として「ラ・プレンサ」紙の経営を引き継いだ。

七九年七月、ニカラグア革命を終えた、サンディニスタ民族解放戦線(F.S.L.N.)の要請にこたえ、国家再建執政委員会の委員に就任したが、その後サンディニスタの左傾化に反対し、八〇年四月、同委員を辞任。

以後、サンディニスタ政権は「ラ・プレンサ」紙に対し、頻繁に検閲、発行停止などの妨害を加えたが、チャモロ夫人は彈圧に屈することなく、反サンディニスタの論陣を張った。

一九九一年三月七日 記録版 第51号

レ 斯 ト ラ ン メ ニ ュ ー

(4月からグランドメニューが改定されます。*印は新しいメニューです。)

APPETIZER

アラスカ特製フォアグラ	1,000円	*エスカルゴ アラスカ風	1,600円
鮑の燻製	1,200円		

SOUP

ポタージュ	400円	オニオングラタン	550円
コンソメ	400円		

SEA-FOOD

車海老トマトソース煮	1,100円	*舌平目の網焼	900円
*鮭のバター焼	900円		
*鮭のフライ	900円	*今月のおすすめメニュー	
*舌平目のポンファム	900円	2~3品	3,000~4,000円

CHARCOAL BROILER

サーロインステーキ(外国産)	3,300円	テンダーロインステーキ(外国産)	3,300円
*(国産)	6,500円	*(国産)	6,500円
*仔牛肉のステーキ	3,500円	仔羊背肉のグリル	1,400円

SALAD

ハートレタス	400円	トスサラダ	400円
スライストマト	400円	コンビネーション	600円

ENTREE

*仔牛肉のカツレツ		*ステーキハム	
マッシュルームソース	1,000円	サークラウト添え	900円
牛肉のストロガノフ風	1,300円	*若鶏のソテー	800円
牛舌肉の煮込み	1,400円	シャリアピンステーキ	2,900円

DINNER

(A)ステーキディナー	(B)ラブスターディナー	(C)フルコースディナー
スープ又はオードブル	スープ又はオードブル	オードブル
フィレステーキ	ラブスターチーズ焼きグラタン	スープ
サラダ	サラダ	魚料理
デザート	デザート	肉料理
パン、コーヒー	パン、コーヒー	サラダ
3,800円	3,800円	フルーツ
		パン、コーヒー
		6,000円